

相馬御風 さうまごふう 詩人、評論家、翻譯家。明治十六年七月十日新潟縣
 生れ、昭和二十五年五月八日歿（八十二歳）。本名曾治。別號「お
 ふう、御風生、窓竹、絲川子、White Wings 等。明治二十七年早稻田
 大學文學部英文科卒。在學中岩野泡鳴、前田林外等と東京純文社を興
 し、雜誌「百合」を創刊。二十八年二月末露風等と早稻田詩社を結成。
 大正五年歸郷、昭和五年個人誌「野を歩む者」發刊。

著譯書「御風詩集」(明治四十一年六月一日新潮社)、ツルゲーネフ
 作「父と子」(譯、明治四十一年二月八日新潮社)、「論又作法」(明
 治四十一年五月十八日新潮社)、「作文叢

書」(「短篇 六種 ゴーリキー集」(譯

明治四十一年十一月二十日博文館)、

ツルゲーネフ作「貴族の家」(譯、明

治四十一年十月二十日新潮社)、「黎



明期の文學」(大正元年九月二十一日新潮社)、「新文學初歩」(大

正二年一月二十日新潮社)、「峠」(大正二年二月十八日春陽堂

「現代文藝叢書」)、「ソンドレーエフ作「七死刑囚物語」(譯、大正

二年五月十七日海外文藝社「海外文藝叢書」。二版・十年二月二十五

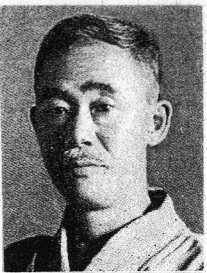
日文化社「文化叢書」)、「トルストイ作「アンナ・カレニナ」全二冊

(譯、上、下・大正二年十月十八日早稻田大學出版部「近世文學」)、

ツルゲーネフ作「處女地」(譯、大正二年二月二十

日博文館「近代西洋文藝叢書」)、「自我生活と

文學」(大正二年六月四日新潮社)、「トルストイ著



「人生論」(譯、大正二年九月十八日新潮社「新潮文庫」、改版・五

年十一月十六日新潮社）、『毒藥の壺』（大正二年十月二十五日早稻田
文學社、東京堂書店發賣）、トルストイ著『性慾論』（譯、大正四年
一月七日新潮社）『新潮文庫』、改版・五年十一月十日新潮社、再刊・

昭和八年四月十日『新潮文庫』、二十
四年一月二十日大泉書店）、『個人主義

義思潮』（大正四年四月八日大泉書店
房『近代思想叢書』）、『御風論集』

（大正四年四月九日新潮社）『現代談論
選集』（、『ゴッーリキイ』（大正四年

五月二十日實業之日本社）『近代文豪評傳』（、トルストイ著『我が心懺
悔』（譯、大正四年七月八日新潮社、再刊・十二年十一月十五日『ト

ルストイ文庫』、昭和九年八月一日『新潮文庫』（、ド・ミエツセ作
『戀の心懺』（世紀病者の告白）』（野原抱影共譯、大正四年十月一

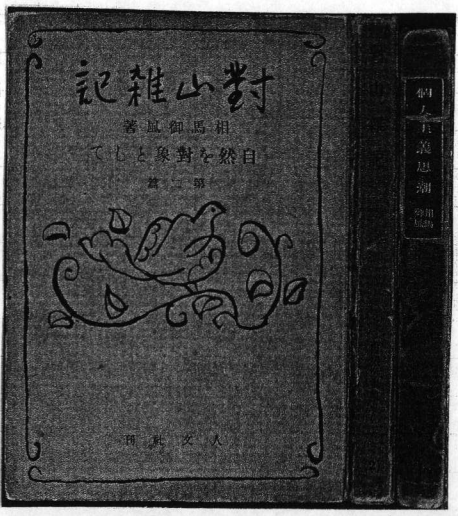
十一月新潮社）、トルストイ著『オチホレオン露國遠征論』（譯、大正
四年十一月十日新潮社）、『新編寫辭典』（編、大正四年十一月二十

日新潮社）、『還元錄』（大正五年一月十五日春陽堂）、『トルスト
イ論文集』（譯、第壹『藝術論』大正五年二月二十八日早稻田大學出

版部）、『凡人海士』（大正五年七月十七日新潮社）、『トルストイ
叢書』（譯、4冊、4冊・ムラー下『大正六年一月二十二日新潮社）、

『ウレ・ビルゴノ著』トルストイ傳』（譯、大正六年二月二十日新潮
社）、『良寛和尚詩歌集』（編、大正七年二月十八日春陽堂）、『十

六人集』（片上海共編、大正九年一月二十五日新潮社）、『良寛和尚
尺牘』（編、再版・大正九年十一月二十五日春陽堂）、『砂下漫筆』



- (大正十年五月十五日春陽堂)、 『文藝史料要覧』(下巻)、『(中村星湖共編、大正十年六月十八日春陽堂)、 『作童謡選集』(合著・大畑匡山編著、大正十一年六月五日岡村書店)、 『野山雜記』(大正十二年六月十二日人文社「自然を對象としして」)、 『雜草苑』(大正十二年九月、千日高陽社)、 『我等の可集』(附排名録) (大島 譽谷共選、鏗 齋 舍 大海 松琴堂琴水、大正十五年九月一日新潟・松澤文霞編輯)、 『義人生田萬の生涯と詩歌』(昭和四年七月十五日春秋社)、 『日光寺裏雄歌集』(愛染) (選、昭和五年四月十九日綱島公夫・新日光寺刊)、 『歌集』(月見六重) (昭和五年八月、二十五日新潟・木蔭會「木かげ叢書」)、 『人間最後の姿』(稻馬諒子共著、昭和七年十二月十八日春陽堂)、 『馬鹿一百人』(昭和八年十一月一日實業之日本社)、 『珍談奇談集』(合著、昭和八年十一月十六日大日本雄辯會講談社「キング文庫」)、 『煩惱人一茶』(昭和十一年十一月一日實業之日本社)、 『愚庵和尚』(附愚庵和尚短歌抄) (昭和十二年十二月二十日春陽堂書店「春陽堂文庫」)、 『郷土文藝讀本』(昭和十二年七月十五日實業之日本社)、 國木田獨步著『詩及小品集』(獨歩全集の) (解説、昭和十四年一月二十七日新潮社「新潮文庫」)、 『貞心と千代と蓮月』(昭和十四年四月、千日春秋社)、 『白は舞の』(昭和十四年十一月二十日京都・人文書院)、 『白木庵』(昭和十六年一月二十一日新潟・野々岳むさしの會)、 『隨筆集』(『白は舞の』) (昭和十七年二月十日京都・人文書院)、 『歌話』(昭和十七年十二月、千日輝文堂書房)、 『雪中注日』(昭和十八年一月十日櫻井書店)、 『いんまのこころ』(昭和十八年九月二十八日輝文堂書房)、 『神國の朝』(昭和十八年十一月十五日童話春秋社)、 『農

土田全集』(合著・松村又一編、昭和十九年七月、千日萩原堂)
 彰考書院創設事務所)、隨筆『風流・第一輯』(合著、昭和二十一年
 九月十日風流堂)、可大馬食寬『(昭和二十二年二月十日春陽堂)、
可凡人淨土抄』(昭和二十二年十月五日京都・石華苑)、隨筆集『待
 春記』(昭和二十四年四月十五日秀文館)、續稿・隨筆『静かなる恍
 惚』(昭和二十七年一月、千日泰光堂)等。

文献、紅野敏郎、相馬文子編『相馬御風の人と文学』(昭和五十七年九月、千日
 自著刊行会「マメウ」と双書)等。